

稲生地区地域計画

2026年4月～2030年3月

キャッチフレーズ

『みんなでワクワク! いのう2029』



2026年3月

夢ある稲生まちづくり協議会
地域計画策定特別委員会

目 次

1. 地域計画について	
(1) 目的	
(2) 見直しにあたって	
(3) 計画期間	
2. アンケート結果から見えた現状と課題	 2～4
3. 2030年における地域のありたい姿	 4
4. ありたい姿に向けた取組方針	 5
(1) 夢協4ヵ年の取組方針	 5
(2) ありたい姿に至るための重点課題	 5
(3) 各部の事業目的と重点取組方針	 5～7
(4) 特別委員会の設置	 7

【参考資料】

地域計画策定アンケート結果

1. 地域計画について

(1) 目的

「地域計画」とは、住みよい地域をつくっていくために、住民自らが立てる計画です。稲生地域の宝物や課題を整理しながら、稲生の皆さんが住みよい地域とは何かを考え、意見交換を行い、稲生で取り組む課題の解決方法や、稲生を元気にする方法等をまとめ、見える化した地域づくりの指針となるものです。

(2) 見直しにあたって

本計画は、2021年に策定した地域計画の改訂版です。2024年10月に地域計画策定特別委員会を立ち上げ、見直しに当たっては、これまでの地域活動を振り返るとともに、前計画策定時と同様、住民アンケートを実施し、住民の意見を再確認することとしました。今回のアンケートでは、稲生地区在住の15歳以上の住民に加え、将来の地域活動の担い手として期待される稲生地域在住の小学5,6年生と、中学生全員も対象としました。

(3) 計画期間

本地域計画の期間は、2026年4月から2030年3月までの4年間とします。

2. アンケート結果から見た現状と課題

アンケート結果を分析し、6つのカテゴリに分けて、現状と課題をまとめました。

【地域の活動・絆づくり】

◆ 現状

- ・大人アンケートでは、サークル活動等への関心が低く、「関心がない・どちらかといえば関心がない」が66.4%を占めるなど、地域活動への参加意欲が十分に高いとはいえない状況である。
- ・収穫祭、サマーフェスタ、青少年育成活動など、ほぼ全ての地域活動に対して住民の関心は低く、否定的意見も多数あったことから、活動参加へのハードルが高い状況がうかがえる。
- ・敬老会やサマーフェスタ等の世代横断型イベントに対し、参加経験者からは肯定的な意見が寄せられたものの、否定的回答も多く、交流の機会が必ずしも参加につながっていない。
- ・小中学生アンケートでは、「地域の人と一緒に何かしてみたい」と回答した割合が、58.8%である一方、「したくない・どちらかといえばしたくない」が、41.3%を占めており、世代間交流への意欲にばらつきがみられる。
- ・小中学生の91.5%が「稲生が好き」と回答しており、地域への愛着は高い。一方で「将来も住みたい」と回答した割合は、63.9%にとどまり、36.1%が将来の定住に消極的である。

◆ 課題

- ・住民が交流できる場があり、地域への愛着を感じている住民も多いが、地域活動への参加につながる仕組みが不足している。
- ・世代間交流を促進し、「参加すると楽しい」「役に立てる」と実感できる仕組みや環境整備が求められる。

【安全・防災】

◆ 現状

- ・大人アンケートでは、防災避難訓練への関心について「関心がない・どちらかといえば関心がない」が34.0%を占めており、参加意欲の向上が課題となっている。
- ・「災害に対する備えが充実している」と感じていない住民が36.2%存在し、防災体制への不安が一定程度みられる。
- ・防犯面においても、「備えが充実していない」との回答が、49.8%に達しており、地域の安全確保に対する住民の評価は、必ずしも高くない。

◆ 課題

- ・防災・防犯に関する住民の参加意欲が十分でなく、地域の助け合い体制の基盤が弱い。
- ・防災・防犯の取組を「自分ごと化」するための啓発や仕組みづくりが必要である。

【地域の宝】

◆ 現状

- ・「歴史・文化・伝統がある地域だと思う」と回答した住民が88.7%と高いものの、「知らない」「関心がない」と答えた住民も一定数いる。
- ・収穫祭やサークル活動など、地域資源を活用した活動への関心が低く、収穫祭では、59.5%が「関心がない・どちらかといえば関心がない」と回答している。
- ・小中学生は、「地域の人と何かしてみたいか」という問いに、「したい・どちらかといえばしたい」との回答が58.8%と過半数あり、次世代につながる若者の活躍が期待される。

◆ 課題

- ・地域資源を活用するための担い手が不足している。
- ・地域の宝を再発見し、老若男女、住民が関わりたくなる仕掛けづくりが必要である。

【生活の快適性】

◆ 現状

- ・大人アンケートでは、「清潔で綺麗な環境が保たれている」と回答した住民が71.4%である一方、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」が28.7%存在する。
- ・環境保全活動に関する設問はないものの、他の地域活動への関心の低さから、環境保全活動においても担い手不足が懸念される。

◆ 課題

- ・現状の環境は一定程度評価されているが、維持・保全の担い手確保が課題である。
- ・住民が環境保全に参加しやすい仕組みづくりが必要である。

【子育て・青少年育成】

◆ 現状

- ・大人の青少年育成・スポーツ振興活動への関心が低く、「関心がない・どちらかといえば関心がない」が79%を占めている。
- ・子育てのしやすさについては肯定的評価が75.8%と高いものの、育成活動への参加にはつながっていない。
- ・小中学生は、「地域の人と何かしてみたいか」という問いに、過半数が「してみたい」と積極的な回答をするものの、地域との関わりに消極的な層が41.3%存在する。

◆ 課題

- ・「地域でこどもを育てる」という意識が十分に浸透していない。
- ・こどもが地域と関わる機会を増やすための仕組みづくりが求められる。

【高齢者福祉】

◆ 現状

- ・大人アンケートでは、「日常生活に便利」と感じていない住民が12.0%存在する。
- ・「高齢者が安心して暮らせる地域」と感じていない住民が43.8%にのぼり、生活支援体制への不安がみられる。
- ・助け愛ネットについては、「将来利用したい」という回答や、利用者からの感謝の言葉が書かれた回答がある一方、関心が低く、否定的回答が58.6%を占めており、支援制度が十分に認知・活用されていない状況である。

◆ 課題

- ・生活支援の仕組みが必要な人に届いていない。
- ・移動・買い物・通院等の支援をより身近に利用できる体制整備が求められる。

まとめ

本アンケート結果から、地域に対する一定の愛着や評価はみられるものの、地域活動への参加意欲が全体的に低く、住民の交流・絆づくり、文化、防災、環境、青少年育成、生活支援など、多岐にわたる分野で「担い手不足」が共通課題として浮き彫りになりました。

2030年に向けては、住民が参加しやすい環境づくり、活動の魅力向上、支援制度の周知・活用促進など、住民主体の地域づくりを支える仕組みの強化が求められます。

これらアンケート結果から得られた示唆を踏まえ、稲生地域の将来の「ありたい姿」を見直し、新たに「2030年における地域のありたい姿」と、そのありたい姿に向けた取組方針及び重点課題を設定することとします。

3. 2030年における地域のありたい姿

- こどもから高齢者までの全住民の交流の場があり、住民どうしのコミュニケーションが活発に行われている
- こどもから高齢者までの全住民が地域に愛着を持ち、地域活動に積極的に参加している
- 防災、防犯意識が高く、災害など何かあったとき、近隣で声をかけ合い助け合っている
- 地域の宝（人・もの・こと）を活用し、地域の活性化につなげている
- 緑豊かな田園や里山を維持し、きれいなまちづくりへの意識が高い
- こどもが安心して遊び、学び、地域社会の一員として成長できている
- 社会的弱者を含むすべての人が通院や買い物などの日常生活に困らない

4. ありたい姿に向けた取組方針

(1) 夢協4か年の取組方針

キャッチフレーズ

『みんなでワクワク! いのう2029』

- 明るくて安心できるまちの雰囲気と、あたたかい人とのつながりを創る
- 災害や事件にも負けない、助け合いができる地域にする
- 稲生の魅力を発信し、地域をもっと好きになってもらう
- 社会的弱者への配慮と支援ができるまちづくりを推進する

(2) ありたい姿に至るための重点課題

- 住民の地域活動への参加・参画の拡大
 - ・こどもの居場所づくりと体験活動の充実
 - ・こどものまちづくり参画の機会創出
- 地域一体で取り組む環境モラルの向上
- 地域防災計画に沿った自助・共助防災活動の充実
- 防犯環境の整備と地域不安全箇所の改善
- 地域の宝物を活用する活動の充実
- 社会的弱者に配慮した交流や集いの場の充実
- 活動と運営の見直しによる持続可能な組織づくり

(3) 各部の事業目的と重点取組方針

自治会連合部会	
事業目的	● 市政と協働し、自治会相互の連携を取りながら、安心、安全に暮らしていけるまちを実現する
重点取組方針	● 各部会行事への協力、参加を連合部会として取り組む ● 行方不明者搜索ネットワーク協力体制に取り組む ● 各部会との協働を図り、地域づくり計画を推進する
健康づくり部会	
事業目的	● 地域住民の心身健康増進・維持及び親睦交流並びに相互理解を深めることを目的とする
重点取組方針	● 地域住民の親睦・交流を図るためスポーツ等の「ワクワクする」イベントを企画する ● こどもから高齢者まで一緒に出来るニュースポーツの普及活動 ● 家族と共に参加できるイベントを開催する

安全部会

事業目的	●誰もが地域への愛着と誇りを持ち、安全安心に暮らしていけるまちの実現を目指す
重点取組方針	●防災、防犯意識が高く、災害など何かあった時、助け合いができる地域にする ●交通が安全に保たれ、明るくて安心できるまちの雰囲気と、あたたかい人とのつながりを創る

福祉部会

事業目的	●こどもや高齢者、障がいのある方も誰もが住みたい地域でいきいきと自立した生活が送れるように、地域住民の皆さんが協力し、共に支え合い助け合って安心して生活できる地域社会づくりに取り組む
重点取組方針	●支え合い活動 ・一人暮らし高齢者や障がい者などへの声かけ安否確認、見守り訪問 ・困りごとの手伝い（病院、買い物の移動、屋内外作業等） ●交流・居場所づくり ・高齢者サロン、子育てサロンの開催 ・こどもや親、高齢者とのふれあい「夢協稲乃屋食堂」の開催 ・クラブ稲生（老人会）会員同士のふれあい親睦行事、旅行、研修会のサポート

こども育成部会

事業目的	●こどもの心と身体の健全な成長を支える ●自主性や社会性を育み、次代の社会を担うための力を養う
重点取組方針	●こどもの居場所づくりと体験活動の充実 ●地域への愛着形成 ●次世代のまちの担い手育成（こどものまちづくりへの参画推進）

文化部会

事業目的	●「歴史と文化の溢れるまち」としての稲生の特性を活かし、歴史や伝統、そして文化を通じて老若男女が広く稲生に郷土愛と誇りを抱くことを目的とする
重点取組方針	●部会の基軸となる事業を改めて見直し、「ワクワク」を抱かせる取り組みへの改善を図る ●令和9年の稲生の獅子神楽の舞年に向けての「ワクワクする」発信の強化 ●事業を通じ、こどもたちをはじめとする住民のまちづくりへの参画促進

環境部会

事業目的	●地域の環境保全、改善と安心・安全な住みよい環境づくりを行う
重点取組方針	●地域に愛着を持ち、きれいなまちづくり ●治水事業の推進 ●遊休農地を利用して景観作物を栽培することで美化に努める

産業振興部会

事業目的	●地域の産業振興を図ることを目的とし、関係団体、事業者と協働して研究活動する
重点取組方針	●従来の事業を各団体と協働しながら活性化を図る ●地域の産業振興の方向を探り研究する

(4) 特別委員会の設置

- ① 夢協イベント改革特別委員会
 - ・アンケート結果を踏まえた各種イベントの魅力化を図る改革を検討
 - ・各種イベントでのこどもの参画の機会創出を検討
- ② 夢協広報改革特別委員会
 - ・読者の関心と期待感を高め、ワクワクさせる内容の検討
 - ・広報の効果的な手段・方法を検討
- ③ 防犯環境整備特別委員会
 - ・自治会と連携し、防犯灯や防犯カメラ設置推進

地域計画策定アンケート結果

1. 調査の目的

新たなまちづくりの指針となる次期地域計画（'26年度～'29年度）の策定を進めるにあたり、住民の考え、意見を、地域計画に反映するため、アンケート調査を実施した。

2. 調査対象

- ・ 大人：稲生地区在住の15歳以上の住民
- ・ こども：稲生地区在住の小学5、6年生、中学生

3. 調査期間

2025年2月～3月

4. 調査方法

【大人：15歳以上の住民】

まちづくりに関する設問（27問）について、無記名によるアンケートを実施。

調査票またはWEBによる回答提出

【こども：小学5、6年生、中学生】

まちづくりに関する設問（6問）について、無記名によるアンケートを実施。

WEBによる回答提出

5. 回収状況

- ・ 配付数：4,381部
- ・ 回答数：3,059人（大人 2,705人、小学5年生、6年生、中学生 354人）

6. 調査結果

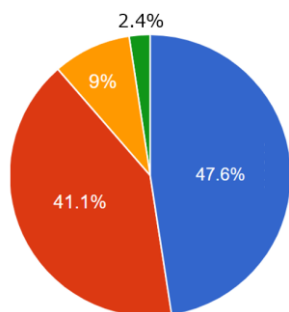
小数点2位以下四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。

(1) アンケート結果（大人：15歳以上の住民）

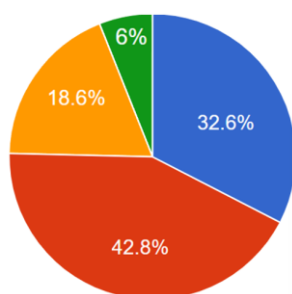
凡例

- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらかといえばそう思わない
- 4. そう思わない

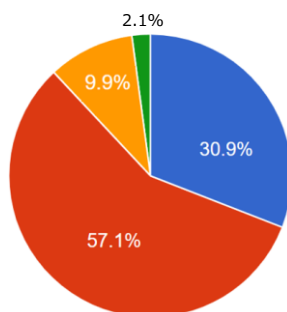
◆ この地域に
ずっと住みたいと
思いますか



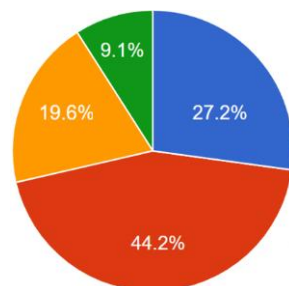
◆ 日常生活に
便利な地域だと
思いますか



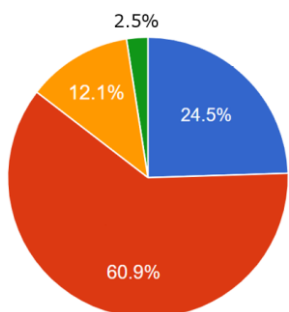
◆ 清潔できれいな環境
が保たれている地域だ
と思いますか



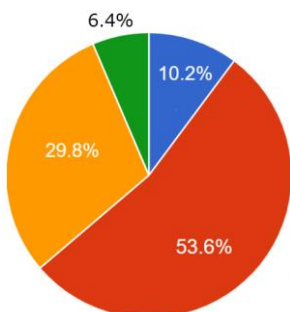
◆ 歴史・文化・伝統が
ある地域だと思いますか



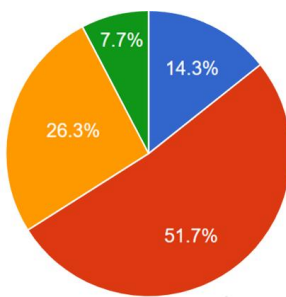
◆ 安心・安全に
暮らせる地域だと
思いますか



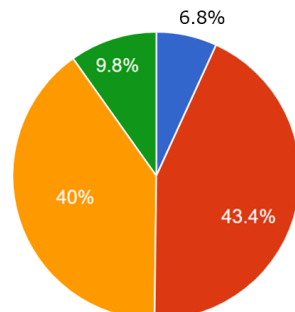
◆ 災害に対する備えが
充実している地域だと
思いますか



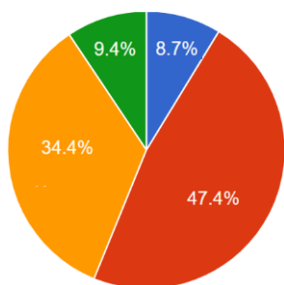
◆ 防災避難訓練に
関心がありますか



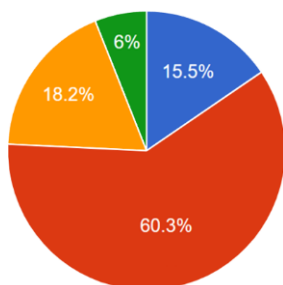
◆ 防犯に対する備えが
充実している地域だと
思いますか



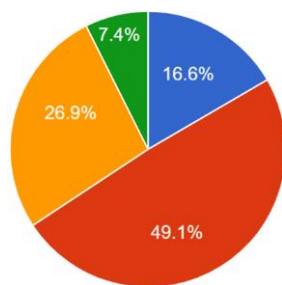
◆ 高齢者が安心して
暮らせる地域だと
思いますか



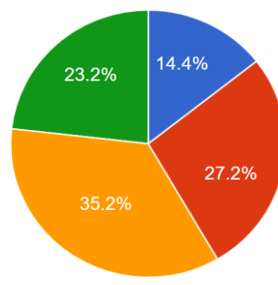
◆ 子育て（教育・保育）
がしやすい地域だと
思いますか



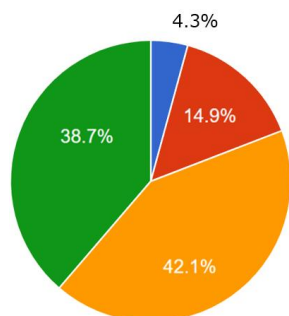
◆ 地域活動が
活発な地域だと
思いますか



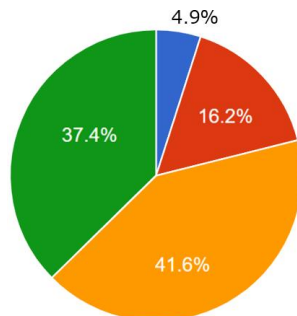
◆ サマーフェスタに
関心がありますか



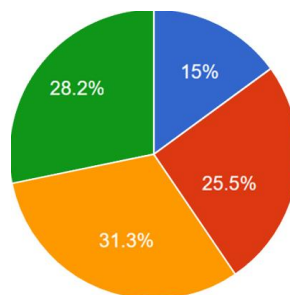
◆ 敬老会に関心がありますか



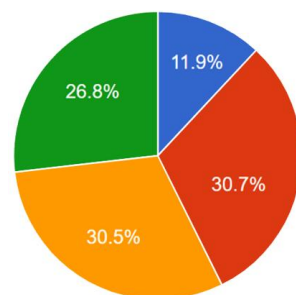
◆ 青少年育成・スポーツ振興の活動に関心がありますか



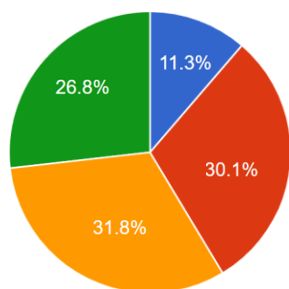
◆ 秋の収穫祭に関心がありますか



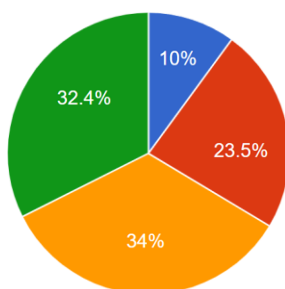
◆ 子ども食堂“稲乃屋”に関心がありますか



◆ 助け愛ネットに関心がありますか



◆ 稲生公民館内のサークル活動に関心がありますか

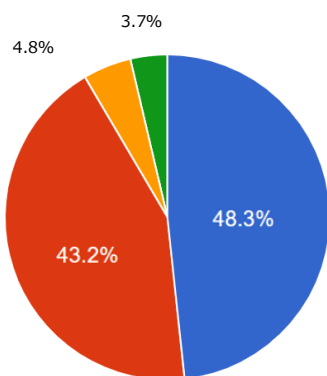


凡例

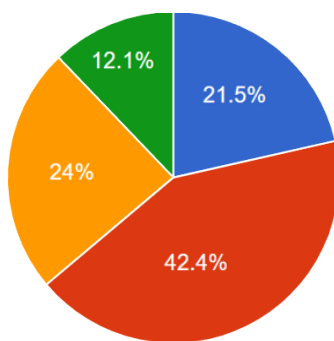
- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらかといえばそう思わない
- 4. そう思わない

(2) アンケート結果（こども：小学5、6年生、中学生）

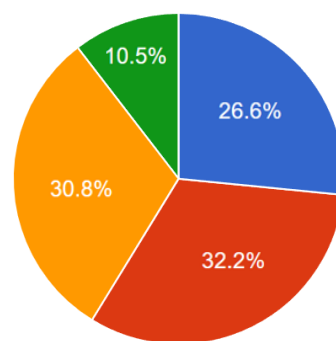
◆ 稲生が好きですか



◆ 将来も稲生に住みたいですか



◆ 稲生のみんなといっしょに何かしてみたいと思いますか



- 1. すき
- 2. どちらかといえばすき
- 3. どちらかといえばすきではない
- 4. すきではない

- 1. 住みたい
- 2. どちらかといえば住みたい
- 3. どちらかといえば住みたくない
- 4. 住みたくない

- 1. してみたい
- 2. どちらかといえばしてみたい
- 3. どちらかといえばしたくない
- 4. したくない